

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

平成 30 年 1 月号



【有田振興局】1/29 有田農業技術者会が剪定講習会を開催

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1
1. 海南市農業士会が県外研修会を実施	
II 那賀振興局	2 - 3
1. 那賀地方農業士会女性部会カトレア会現地研修会	
2. 「よい土」ってなんだろう? ～那賀地方有機農業推進協議会研修会～	
III 伊都振興局	4 - 6
1. 伊都地方農業士連絡協議会が県外研修を開催	
2. 橋本市生活研究グループが小学校でみそ作り指導	
3. 橋本市の小学校で学校給食交流会を開催	
IV 有田振興局	7 - 9
1. 有田みかんデータベースリニューアル!!	
2. 平成29年度有田地方青年農業者会議を開催!	
3. 有田農業技術者会が剪定講習会を開催	
V 日高振興局	10 - 12
1. 平成29年度「農トレ!ひだか」第3回セミナーを開催	
2. 第31回地域農業を考える日高のつどいを開催 テーマ 「知識を広げて考えよう 日高の農業」	
3. 由良町農山漁村女性の日推進会が交流会を開催	

Ⅵ 西牟婁振興局

13-15

1. アグリビギナー研修（果樹）を開催しました
2. 第2回女性起業支援研修会を開催
3. 川添緑茶研究会が新春初もみ会と初揉み茶を楽しむ会を開催！

Ⅶ 東牟婁振興局

16

1. 重点プロジェクト【6次産業化による地域の活性化】
～三津ノ地域活性化協議会が「サツマイモ加工体験」を開催～

Ⅷ 農林大学校

17

1. 農学部花きコースが県内研修を実施

I 海草振興局

1. 海南市農業士会が県外研修会を実施

1月23日、海南市農業士会(笹尾拓司会長)が新規品目の導入を目的として、三重県で柑橘類や亜熱帯果樹についての研修を行い、4名が出席した。

始めに、道の駅パーク七里御浜に立ち寄り、直売所でレモンや晩柑類、自社工場で作るみかんジュース等の加工品が販売されている状況を見学した。

続いて、三重県農業研究所紀南果樹研究室で鳥獣害対策及び柑橘、亜熱帯果樹について研修した。まず須崎主幹研究員より、柑橘オリジナル品種や隔年結果対策の超早期摘蕾、ヒヨドリ、シカ対策、サル対策の「犬のおまわりさん」、地域戦略プロジェクトの「パッションフルーツなどの亜熱帯果樹における国産化可能性の分析と栽培技術」等の研究成果について説明を受けた。

その後、ほ場の案内を受けた。ハウス内ではアテモヤ、パッションフルーツ、アボカド、スターフルーツ、マンゴー、ライチ等の亜熱帯果樹を中心に見学した。露地ではオリジナル品種、マルドリに適した新規マルチシート「美味シート」、防鳥糸掛け器「F1小太郎」等を見学した。

今回の研修により、会員は特にパッションフルーツに興味を持ち、試作のための苗購入を検討している。

今後とも、当課では収益向上につながる新規品目の検討、導入を進めていきたい。



須崎主幹研究員からの説明



アテモヤの栽培状況を見学

Ⅱ 那賀振興局

1. 那賀地方農業士会女性部会カトレア会現地研修会

那賀地方農業士会女性部会カトレア会(会長 田村八江子)は、会員の資質向上と地域の農業振興を図るため、1月31日に橋本市の農事組合法人「くにぎ広場・農産物直売交流施設組合」(組合長 岡本進)で現地研修会を実施し、会員6名が参加した。

岡本氏からは、橋本市西畑地区で「幻のはたごんぼ」と言われた野菜を地域特産品として復活させるための、栽培・販売等の取り組みについて説明があり、会員らは熱心に聞き入っていた。

会員からは、「はたごんぼ」の農業機械を活用した栽培・収穫、商品づくり、イベント開催などについて多数の質問があるなど、有意義な研修会となった。



農産物の販売



はたごんぼの販売

2. 「よい土」ってなんだろう？ ～那賀地方有機農業推進協議会研修会～

1月25日、那賀地方有機農業推進協議会(会長 関弘和)は、農業を行う上で重要な「土」について知識を深めてもらおうと、『「よい土」ってなんだろう？』と題して土壌微生物の研修会を開催し、管内生産者ら78名が参加した。

講師には、微生物の働きを世界で初めて数値化し農業環境研究分野において貢献されている、株式会社DGCテクノロジーの横山和成氏を招いた。

講演では、「よい有機物とは、複数年無理なく調達できるものである。土壌の生物性をよくするためには、①化学肥料は使った分だけケアをする、②土壌消毒は微生物がすべていなくなるのでやらないほうがよい、③たくさん耕せばよいというわけではない」などと説明があり、自身の園地の状態を把握することが最も大事であるとのことであった。

参加者からは、「ハウスの連作障害対策としては土壌消毒をせずにはどうすればよいのか」「土壌微生物活性値の測定はどこでできるのか」など多数の質問が上がった。

また、参加者へ聞き取り調査をした結果、78名のうち33名が有機栽培志向の農家であった。

同協議会としては、来年度以降、品目別の有機農業に関する研修会を開催する予定としている。



熱心に話を聞く参加者ら

Ⅲ 伊都振興局

1. 伊都地方農業士連絡協議会が県外研修を開催

1月24日、伊都地方農業士会連絡協議会（会長：廣田哲也）は、大型農産物直売所見学やものづくりの仕組み体験を通して、自己研鑽と会員相互の親睦を図るため、JA おうみ富士「おうみんち本店」（滋賀県守山市）、ヤンマーミュージアム（滋賀県長浜市）等を訪問。農業士会員ら16名が出席した。

「おうみんち本店」では、伊庭浩孝本店長より農産物や加工品の販売状況等の説明を聞いた。同直売所は、平成20年5月にオープン、今年で丸9年を迎える。バイキングレストランが併設され、消費者交流の一環として、畑の直売所（収穫体験）や青空フィットネスクラブ（農業体験イベント、料理教室）、専用車での出張販売等に取り組んでいる。

当地は、稲作の他に守山メロンの生産（部会員約50名）が盛んで、7～8月の収穫時期には大勢の客が来店する。その他に「なばな」「葉しょうが」「いちご」等の野菜がある。今年も、昨年の台風21号の影響で野菜類が少ないとのこと。また、店内にはコシヒカリ、キヌヒカリ、ミルキークイーンなど7品種の玄米や地場産の米粉を使った玄米入りパンなどの加工品が数多く販売されていた。果実は、地場産の冷蔵柿、梨、葡萄が売られていたが、柑橘類は仕入れ品（和歌山産）であった。

ヤンマーミュージアムでは、始めにスタッフから施設の概要を聞き、その後は館内を自由に見学した。長浜市は、ヤンマーの創業者山岡孫吉（ディーゼルエンジンの小型化に世界で初めて成功）の生誕地であり、この偉業をたたえて記念館が建設された。館内の展示コーナーにはトラクター等の農機具や建設機械、船舶エンジン等が展示されている他、小型建機の操作やエネルギー変換体験等のコーナーも設けられており、会員らは思い思いに体験していた。

本協議会では、2月に経営事例発表会を予定しており、4Hクラブ会員や新規就農者との交流を活発にし、地域の活性化に繋げられるように支援していく。



伊庭本店長から説明を聞く



ヤンマーミュージアム
（大型トラクター展示）

2. 橋本市生活研究グループが小学校でみそ作り指導

橋本市生活研究グループでは、リーダー12名が12月13日～15日に三石小学校5年生58人、1月24日～26日に橋本小学校4、5年生88人を対象に、みそ作りの指導を行った。

日本食の代表であるみそ作りを授業で取り上げたいとの小学校の要望で、橋本小学校では平成11年、三石小学校では平成19年から実施している。

当日は蒸し機や麴発酵機等を家庭科室に持ち込み、各校とも6班に分かれて麴作りと大豆をつぶして仕込む工程まで実習し、合計約84kgのみそを加工した。本年秋まで学校で熟成させ、家庭科の調理実習でみそ汁を作るとともに各自、家へ持ち帰り家族と味わう予定。

学校給食で使用しているみそは、生活研究グループの有志で組織する橋本市農産加工グループが製造しており、同じみそを作るということで、子ども達は大変熱心に実習に取り組んだ。

グループでは、食べ物の大切さや日頃食べている物がどのように作られているかを児童に伝える機会として、今後も続けていく予定である。



麴づくりから実習（三石小学校）



米の変化を観察する児童（橋本小学校）



大豆をすりつぶして仕込みをする児童
（橋本小学校）

3. 橋本市の小学校で学校給食交流会を開催

橋本市では学校給食での地産地消を推進するため、平成 20 年度から全国学校給食週間にあわせ、毎年 1 月下旬に給食用の農産物やみそを生産するグループが橋本市内の小中学校へ出向き、日頃の活動について説明する「給食交流会」を開催している。

1 月 29 日、出塔柏原宮農研究会学校給食納入部会(以下給食部会)2 名と橋本市農産加工グループ 1 名が学文路小学校(2 年生 12 名)へ出向き、高野口給食センターの栄養士、橋本市教育委員会、農業水産振興課職員も出席した。

給食部会では日ごろ給食に納入している野菜を手を持ち、児童に名前を尋ねたり、去年は 10 月末に台風が 2 回あり例年より成長が遅れて苦労していること等を説明した。また、橋本市農産加工グループは年間を通じてみそを加工、納入しているが、米麴、大豆、みその現物をみせながら加工方法について説明した。児童は初めてみる米麴を食べて、「甘い!」と驚きの声を上げていた。小学校では 3 年生で国語の授業で大豆のことを学習するので、事前にもみそについて知ることが出来たと先生からも喜ばれた。

当日の献立はクジラの竜田揚げ、人参しりしり、けんちん汁で、地元の人参、ねぎ、みそが使われていた。栄養士は給食で地元産を使う目的や栄養価についての説明を行った。

学校給食交流会は 1 月 25 日に柱本小学校でも開催された。振興局が始めた事業であるが平成 25 年度から給食センターが主催で行い、食育活動として定着している。



人参の出来具合について説明



みその原料と作り方について説明



給食を配膳する児童



当日の給食

IV 有田振興局

1. 有田みかんだータベースリニューアル！！

全国初の温州みかん専用ホームページとして1998年11月から開設している『有田みかんだータベース』が今年で20周年を迎える。JAありだや各市町、有田振興局等で構成される『ブランドありだ果樹産地協議会』が運営し、みかん農家や消費者への情報提供を目的に、みかんの生育情報や産地風景、病虫害情報等、役に立つ情報提供を目指し、農業水産振興課が更新作業を行っている。

近年、タブレットパソコンやスマートフォンの普及により、ホームページを閲覧する環境がめまぐるしく変化してきたことから、多様化する閲覧環境に応じて自動的にレイアウトを変更するなど、見やすさを改善しリニューアルした。

今後、動画の掲載等バージョンアップを予定している。



有田みかんだータベースホームページ画面



○有田雨量データベース

○有田みかんの起源と発達史

【人気コンテンツ】

50音検索 (和歌山県でも検索できます)

有田病虫害図鑑

病害一覧

温州みかん病	エケノコナシ病	黄斑病	かいよう病
かいよう性伝染病	褐色炭疽病	かんキウゼイ病	黒腐病
果実病	果実病	果実病	果実病
片葉病	さび病	アザミハシ病	アザミハシ病
さび病	炭そ病(白粉ナシび病)	接木部腐敗病	炭そ病
緑かび病	黄かび病	-	-

生理病・葉害一覧

黄化病	日焼け病(日やけど)	赤点病	アザミハシ病
ヤニ病	葉の黄変	結露	-
葉の黄変	葉面皸皮の害	-	-

害虫一覧

(※当ページでは昆虫以外のダニ・蜘蛛類等も害虫一覧に含んであります)

アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ
アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ
アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ
アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ
アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ
アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ
アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ
アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ
アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ
アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ	アザミハシ

○有田病虫害図鑑

2. 平成29年度有田地方青年農業者会議を開催！

1月19日、果樹試験場大会議室において「平成29年度有田地方青年農業者会議」が開催され、管内の4Hクラブ員や関係者ら併せて約30名が参加した。本会議は、クラブ員が日頃の農業に対する研究成果や経営内容や農業に対する思いなどを発表し、当面する問題の解決方法や発展方向を見だし、地域農業発展に寄与するとともに、クラブ員の資質向上と相互交流を図ることを目的に開催している。

本年度は、プロジェクト発表の部と意見発表の部の2部門に分けて行われ、プロジェクト発表の部では、湯浅町4Hクラブの井上信太郎氏、有田市4Hクラブの川嶋祥太郎氏、有田川町4Hクラブの松坂進也氏、宮地智也氏、南広4Hクラブの久保田雄士氏が、日頃からの農業経営改善への取り組みについて、意見発表の部では有田川町4Hクラブの辻岡誠之氏が農業に対する熱い思いについて発表した。どのクラブ員も、緊張しながらも自信を持って発表し、審査員からの質問にも的確に回答していた。

審査の結果、プロジェクト発表の部は宮地氏の「作り出そう 自分の味」、意見発表は辻岡氏の「未完農家」が最優秀賞に選ばれた。

なお、宮地氏らプロジェクト発表上位4名と辻岡氏は2月13日に開催される県青年農業者会議において、発表を行う予定である。

また、発表終了後には、昨年9月19～20日に愛媛県で開催された「全国農業青年交換大会」に本県代表で出席した南広4Hクラブの鉢内康太氏と有田川町4Hクラブの谷端航平氏より、大会で行われた中国四国地域の農業者によるプロジェクト発表会や、愛媛県内の3コースで行われたバススクールなどで体験した事柄や持ち帰った情報についての報告があった。

最後に、松山技師がGAP（農業生産工程管理）に関する情報提供を行い、理解度の向上に努めた。



プロジェクト発表



意見発表



全国農業青年交換大会報告会



表彰式

3. 有田農業技術者が剪定講習会を開催

JA ありだ、JA 和歌山県農、県農業共済組合中部支所、有田川土地改良区、有田中央高校、果樹試験場、有田振興局で構成している有田農業技術者が、1月29日、高品質なみかんを連年安定生産する篤農家として知られる指導農業士の的場清氏を講師に迎え、剪定講習会を開催し、会員ら37名が参加した。

有田川町田口地区に在住の地域農業士の小澤守史氏の園地を借り、平成29年産の着果量が多かった樹、少なかった樹について解説を交えながら剪定の実演が行われた。

的場氏の剪定は、主枝を垂直に、垂主枝を水平に伸ばすのが特徴で、細やかな剪定をほぼ一人で行うため、時間はかかる。しかし、作業員を雇用して徹底的に実施する「摘蕾」との併用により、通常約1.5倍の収量を連年確保している。

有田農業技術者会では数年にわたっての的場氏に剪定していただくとともに、摘蕾等の作業も行いながら、現在の樹がどのように変化していくのかを経過観察し、技術資料にまとめていく予定で、技術員の資質向上に繋げていきたい。



講師の的場清氏



剪定講習会

V 日高振興局

1. 平成 29 年度「農トレ！ひだか」第 3 回セミナーを開催

1月11日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（西山和克会長）と農業水産振興課の共催により、「農トレ！ひだか」第3回セミナーを開催した。「農トレ！ひだか」は、日高管内の若手の農業者や管内で農業を始める予定の方などを対象とした研修会で、年3回開催している。今回は、「日高地域の生物資源（バイオマス資源）利用に関する現地研修会」を開催し、日高地方4Hクラブ員や新規就農者等計6名が参加した。

まず、御坊市名田町楠井のバラ施設栽培ほ場を訪問し、園主の山本修好氏から、生物資源を用いたバラの栽培について話を伺った。山本氏はハウスでバラを土耕栽培しており、その品質は高評価を得ている。羊毛くずを畝に施用することで、有機マルチとして機能させ有機物を補給すると共に、土着菌（酵母菌）を活性化させるために米ぬかを施用している。参加者は土耕で栽培している理由、土着菌を育てる効果等に興味を示している様子で、熱心に質問していた。

続いて、印南町の「株式会社 石橋紀州きのか園 切目」を訪問し、社長の石橋幸四郎氏から菌床きのか栽培、廃菌床堆肥およびバイオコークスの製造について話を伺った。工場見学では、地域の間伐材から菌床製造ときのこ栽培、廃菌床の堆肥化工程およびオガコなど植物性資材を石炭コークスの代用となる高火力固形燃料に加工するバイオコークス製造装置について説明を受け、活発な意見交換がなされた。

最後に、当課がみなべ町のビシャコ谷パイロットに設置しているウメのエコ農業実証モデル園を訪問した。園主の谷本隆夫氏は10年前に園地を開設し、ウメ苗木を定植後、約140t/350㎡（400t/10a）のケイフン堆肥を苗木周辺以外に投入した。草生栽培に用いるヘアリーベッチが繁茂しやすい土壌作りと、有機物の補給に取り組んでいる。ヘアリーベッチは園地に定着し自生しており、播種しなくても4月には地表を覆い、窒素補給や地温上昇抑制、乾燥防止に役立っている。またこの園地では平成28年度から、かいよう病の防除を試験的に3月のボルドー液散布のみとしているが、結果は2年連続でかいよう病の発生は少なかった。谷本氏はヘアリーベッチが十分に繁茂することにより、パイロット園地に多い砂礫の飛散が抑えられ、かいよう病菌の侵入口となる果実や枝の傷が少なくなるためではないかと推測しているとのことであった。

現地研修を終えた参加者からは「色々な資材について話が聞けたので、今後の農作業に活用したい」、「改めて土作りが大切だと考えさせられた」との声が聞かれた。当課では、若手農業者、新規就農者の知識・技術向上に向け、今後もセミナーを開催していく。



バラハウスでの研修



紀州きのこ園概要説明



菌床堆肥製造過程の見学



エコ農業実証モデル園の説明

2. 第31回地域農業を考える日高のつどいを開催

テーマ 「知識を広げて考えよう 日高の農業」

日高地方の農業士会、生活研究グループ連絡協議会、4Hクラブ連絡協議会で組織する地域農業を考える日高のつどい実行委員会（後藤明子実行委員長）は、1月24日、紀州農業協同組合印南支店において「知識を広げて考えよう 日高の農業」をテーマに「第31回地域農業を考える日高のつどい」を開催し、会員、関係者約160名が出席した。

第1部では、和歌山地方気象台調査官の原田延明氏から「気候変動の現状と農業分野での温暖化適応策について」と題して、昨今の気候変動の問題や農業分野での対策について有意義な講演を頂いた。第2部では、NPO法人日本健康運動指導士会和歌山県支部支部長の川村護氏から「健康と運動の関わり」と題して、健康であるための運動の重要性について、簡単な運動も含めた講演を頂いた。最後に、農業水産振興課の鳥居主任から「鳥獣の生態と対策について」と題して、情報提供を行った。



後藤実行委員長の挨拶



第1部 原田調査官の講演



第 2 部 川村支部長の講演



情報提供 鳥居主任

3. 由良町農山漁村女性の日推進会が交流会を開催

1月31日、由良町農山漁村女性の日推進会（片山綾子会長）が由良町中央公民館にて交流会を開催し、会員45名が参加した。

推進会では、由良町の女性団体（農業士・生活研究グループ・JA紀州女性会・漁協女性部等）が3月10日の「農山漁村女性の日」を前に毎年交流会を開催している。

今年は、「由良町の海の幸・山の幸を使って料理教室～由良の女性に美と健康を～」をテーマに、アカモクを使ったチジミとみそ汁、イヨカンのスムージーなどの調理実習を行い、皆で試食しながらアカモクの栄養や調理方法、加工の過程等について学んだ。

調理実習では、全て会員が考えたレシピをもとに、チジミは、具材がアカモクとニンジンだけのものと、もやしやニラなどの一般的な具材にアカモクを入れた2種類を調理。ソースも、マヨネーズとアカモクを混ぜたものに香辛料を足したものを4種類作った。スムージーは、「みかん美肌アンチエイジングスムージー」と題し、イヨカンとヨーグルト、はちみつをミキサーにかけて完成させた。

試食会では、「町内の海の幸と山の幸が一緒に味わえてよかった」、「難しい料理ではないので、これからも家庭で作ってみようと思う」との感想を聞くことができ、充実した交流会となった。



調理実習



集合写真

VI 西牟婁振興局

1. アグリビギナー研修（果樹）を開催しました

振興局では、新規就農者や青年農業者を対象に、営農課題の解決や農業経営に関する資質向上を目的として、栽培技術や農業経営に関する研修会を開催した。今回は第1回目で、1月23日（火）に果樹をテーマとして田辺市上芳養の現地と県うめ研究所で行い、新規就農者4名と青年農業者4名が参加した。

田辺市上芳養では、果樹栽培農家の船本幸雄氏（普及指導協力委員）から経営概要とともに、就農後にミカン中心から漬け梅主体の経営へ改善したこと、作業効率を高めるために地区の農業者と農地のフラット化に取り組んだ結果、規模拡大につながったこと、常時雇用の導入や娘夫婦への経営移譲を通じて規則正しい労働環境を整えられたことなどを紹介いただいた。

うめ研究所では、北村副主査研究員から県内のウメ栽培の現状と課題、摘心など安定生産技術の開発、病気に強い新品種の育種、機能性成分や赤色の色素を多く含んだ梅干し以外の新たな加工商材の開発について説明を受けた。その後、場内のほ場見学を行った。

参加者からは、「船本氏の経営改善や労務管理が大変参考になった」、「うめ研究所で研究している新品種について詳しく知ることができて良かった」などの感想が寄せられた。

第2回は、2月20日に野菜栽培と農機具の保守・点検をテーマに開催する。



船本氏のウメ新規造成園



うめ研究所のほ場

2. 第2回女性起業支援研修会を開催

農業水産振興課では、1月11日に田辺市民総合センターにて、家庭や地域でジビエ料理を普及させることを目的とした研修会を開催し、起業やジビエ料理に関心のある女性19名が参加した。

講師は田辺市上芳養出身でフランス料理のシェフである更井亮介氏で、「ジビエを美味しく食べよう」をテーマに開催した。

まず、更井シェフからジビエの取り巻く現状と、ジビエ肉を美味しく食べるためのポイントについて話があった。

ジビエ肉は、解凍時に出てくるドリップを流水で洗ったり、水に漬けて血を抜いたりするとよい。また、低温で加熱すると肉が硬くならないことから、特に高温で加熱すると硬くなる鹿肉はこの方法で調理するとよいとのことであった。

続いて、参加者はグループに分かれて、「鹿肉のストロガノフ」、「鹿肉の肉じゃが」、「猪肉の角煮」の3品を調理し、試食した。

参加者からは、「お肉を水で洗ってもよいとわかった」、「低温で調理したお肉は柔らかくて美味しかった」などの感想があった。

なお、当課では、第3回研修会として2月に6次産業化に取り組む女性起業家の講演会を実施する予定である。



料理を実演する更井シェフ



調理実習

3. 川添緑茶研究会が新春初もみ会と初揉み茶を楽しむ会を開催！

1月14日、川添緑茶研究会(会長：上村誠)が、JA紀南市鹿野製茶工場と川添山村活性化センターにて手もみによる製茶体験とできたお茶を試飲するお茶会を開催した。毎年、消費者に広く参加募集しており、今年は初もみ会に24人、お茶会に30人の参加があり、中にはシンガポールからの参加者もあった。

初もみ会の原料は、研究会会員が昨年5月に収穫した一番茶芽(収穫後、蒸して冷凍保存)を使用した。手もみの作業台(焙炉(ほいろ))3台に参加者が別れ、お茶農家の手ほどきを受けながら体験した。始めて体験する方も多く、悪戦苦闘しながらも約5時間かけてもみあげた。

お茶会では、日本茶のPR活動を行う「サムライ茶人」こと岩本博義氏が、茶を使ったパフォーマンスを披露し会場を盛り上げた。さらに焙炉ごとに製茶した手もみ茶とともに、上村会長が製茶した手もみ茶も試飲した。冷まし湯、熱湯、水出しと淹れる温度により味が変わることや、もむ人によって味が違うことに驚いていた。

参加者は、このような体験を楽しむとともに煎茶への興味や理解がさらに深まった様子であった。



手もみ、うまくできたかな？



サムライ茶人の華麗なる技！
(同時に4種の茶を淹れる)

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【6次産業化による地域の活性化】

～三津ノ地域活性化協議会が「サツマイモ加工体験」を開催～

三津ノ地域活性化協議会（下阪殖保会長）は、1月20日に、サツマイモ加工体験をJAみくまの熊野川営農センターにおいて開催した。この体験は新宮市熊野川町の休耕田を活用し、地域住民との交流を図ることを目的に取り組んできた「サツマイモ体験農園」の最後の体験メニューで、6組15名の参加者があった。

講師は熊野川ふるさとキッチン(玉置達子代表)のメンバー3名が務めた。参加者らは講師からさつまいもクッキーの調理、干しいも加工行程の説明を受けた後、実習にうつり助言を受けながら調理・加工した。最後に、焼き上がったクッキーと講師らが用意した、干しいも、さつまいもの揚げまんじゅうやクリームスープを試食した。

参加者からは「クッキー作りは子どもと一緒に楽しめました。」「干しいもを作る際、皮を厚く剥くことがもったいなく思ったが、仕上がりが綺麗になることを知った。」といったの感想が聞かれた。



講師から説明と実演



クッキー調理



干しいも加工



試食

Ⅷ 農林大学校

1. 農学部花きコースが県内研修を実施

農学部花きコース1、2年の学生10名が、県内の花き生産状況を学習するため、1月23日に、紀の川市のスプレーギク、ユリ、岩出市のキンギョソウ農家を訪問し、それぞれの栽培状況について勉強した。

研修先のハウスでは、定植から出荷までの栽培管理のポイントや栽培している品種、出荷規格や価格等についての説明を受け、学生たちは興味深く聞き入っていた。

農林大学校でも、キク、ユリ、キンギョソウを栽培しているが、生産現場の栽培管理を見るのは初めての学生がほとんどで、ボリュームのある見事な花に驚くとともに、生産者の生の声を聞く貴重な機会となり、大変有意義な研修であった。



スプレーギクの生産者から説明を受けているところ



採花間近のLAハイブリッドユリのハウス



ペンステムン咲きのキンギョソウ



キンギョソウのハウスで生産者と

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489